

そんけい すべき ムスリム の みなさま!

あいすべき よげんしゃ 𐤎𐤒𐤔 が、りんじゅうのせいねんをみまわれたときのことです。「ぐあいはどうですか」とおたずねになると、せいねんはこうこたえました。「アッラーのしとよ。わたしはアッラーのじひをのぞみます。しかしどうじに、じぶんのつみをおそれています。」すると、アッラーのしと 𐤎𐤒𐤔 はこうのべられました。「このよなとき、ひとのこころのなかにそれらふたつ(きぼうとおそれ)がどうじにやどるならば、アッラーはそのひとがのぞむものをあたえ、そのひとがおそれるものからまもってくださるであろう。」¹

しんあいなる しんこうしゃ の みなさま!

にんげんはしっぱいするものです。わすれたり、あやまったり、あやまちをおかしたりします。ときには、アッラーのいましめをまもり、きんじられたものをさけることにたいしてむとんちゃくになることもあります。また、ときにはたにんのけんりやしつかいてきなしんらいをそこない、つみにおちいることもあります。けれども、いくつかのひじょうにじゅうよなてんがあります。それは、じぶんのおかしたつみをけってけいししてはならないこと。ハラームなことをこうぜんとこじしてはならないこと。そして、あやまちやあくじにこししてはならないということです。ぜんとうのアッラーは、とくしんあるしんこうしゃのせいしつについて、つぎのようにつげておられます。「……ふひんこうや、あるいはじぶんでじぶんにふせいをなしたとき、アッラーをおもいおこしてそのつみのゆるしをねがうものたち。アッラーのほか、だれがつみをゆるすだろうか。また、[それがつみであると] しりながらおこなったことにしゅうちゃくすることのないもの。」²

そんけい すべき ムスリム の みなさま!

ときはあつというまにすぎります。わたしたちのじんせいというざいも、こくいつこくとうしなわれていきます。ひをおうごとに、わたしたちはらいせのせいへといっぽずちかづいているのです。このつかのまのじんせいのけつまつは、えいえんのしふくか、かんぜんなそうしつかのいずれかへとつながります。このことを、つねにこころにとめておきましょう。わたしたちにとってもっともみのりあるせいかとは、アッラーによろこばれるおこないをなしとげ、よげんしゃ 𐤎𐤒𐤔 のこうきなじんかくをたいげんすることです。それは、こうせいをわたしたちのげんそくとし、あらゆるあくをさけることにほかなりません。ところが、「いずれにせよアッラーはゆるしてくださるだろう」「そのうちくいあらためればよいだろう」とかんがえ、くいあらためのとびらをひらくことをさきのばしにし、つみにとどまりつづけること、これこそが、わたしたちにとってさいだいのそんしつとなるのです。あいするよげんしゃ 𐤎𐤒𐤔 はこうかたっておられます。「アダムのしそんはみな、つみをおかす。そしてつみをおかすものうち、もっともよいのはくいあらためるものたちである。」³

ほんじつのきんようれいはいのホトバを、ぜんとうのアッラーからのつぎのきっぽうをもっておわります。「[よげんしゃよ、] いいなさい。『じぶんじしんにはんし、ふみはずしてしまつたしもべたちよ。アッラーのじひにぜつぼうしてはならない。ほんとうにアッラーは、つみのことごとくをよくゆるす。ほんとうにもっともよくゆるすおかた、もっともじひぶかいおかた。』」⁴

¹ Ibn Majah, Zuhd, 31.

² Ali 'Imran 3/135.

³ Ibn Majah, Zuhd, 30.

⁴ Zumar, 39/53.